

# 平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

平成29年4月1日

学校法人 電波学園  
ぎふ国際高等学校

平成28年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	学校経営全般	
2	今年度目標	①安心・安全な環境の提供 ②教育の質的向上 (教育環境の充実・教科指導力の向上とカウンセリングマインドを持った教育相談) ③多面的な情報発信 ④特別活動の充実	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①教員の校内外の巡視強化と素行面で心配な生徒の受入れ不可を徹底 ②非常時に対する事前対応策の確立 ③校内外研修への参加 ④岐阜県内の中学校や高校・適応指導教室等との連携強化 ⑤生徒の意見や職業体験を踏まえた社会研修先を決定	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①外国人講師による英会話の実施。専門学校、大学講師による特別講座。 ②発達障がい専門家による校内研修を実施する。 ③インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の研究と実践を行う。 ④中学校・高校・適応指導教室等の訪問や各種の合同説明会に参加する。 ⑤姉妹校専門学校での体験学習や多様な講習会を実施する。	A (B) C D A (B) C D A B (C) D (A) B C D (A) B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①教育方針や指導目標について分りやすく説明を受けている。 ②個性によるクラス分けや登校時間帯分けが行われていることで、自分の居場所を得ることができた。 ③学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。 ④学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足している。	A B (C) D A (B) C D A B C D A (B) C D A (B) C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①落ち着いた雰囲気での授業を受けことができ校内も落ち着いている。 ②頭髪・服装等の生活指導を受ける生徒がなかなか減少しない。 ③追試験を実施し、勉学に対する甘えを払しょくし、補習授業も実施した。 ④中学校・高校・適応指導教室等と情報交流と連携強化ができた。	A (B) C D A B (C) D A (B) C D A B (C) D
7	次年度に向けた改善策・目標	①タブレットによる学び直し(Thanksドリル)の授業の研究と実践 ②インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の更なる研究と実践を行う。 ③アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対しても、更に情報発信を行うよう努め、理解と達成が得られるよう、学校全体で取り組んでいきたい。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成28年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	教務(教育課程・学習指導)		
2	今年度目標	①勉学への意欲向上 ②基礎学力の向上 ③発達障がい、低学力、外国籍の生徒への対応		
3	目標達成に向けての取り組み方法	①学力不振な生徒に補習授業を実施する。 ②勉学への甘えを払しょくさせるために、追試験を実施する。 また、試験前に補習授業を実施し、勉学が苦手な生徒をフォローする。 ③ICTの研究・活用		
		評 価		
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①授業後や追試前に補習実施。 ②追試験の実施によって、試験に真剣に取り組む様子が見られた。 ③Thanksドリルを導入したが、まだ有効活用できていない。ICTもあまり活用できなかった。	A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A B C D A B C D	
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①落ち着いた環境で熱心な授業が行われている。 ②家庭学習が定着してきている。 ③基礎学力が定着している。	<input checked="" type="radio"/> A B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A B C D A B C D	
6	総合的に捉えた成果・課題	①追試験の導入で、勉学への甘えを払しょくさせることができた。 また、補習により追試験を余裕をもって合格させることができた。 ②基礎学力の定着を実感させていない。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A B C D	
7	次年度に向けた改善策・目標	①thanksドリルの有効利用を図り、生徒の基礎学力を上げる。 ②学力の低い生徒への補習を実施し、追試験を受験する生徒を減らす。 ③各教科で授業内容や授業方法を研究し、より理解しやすい授業を行う。 ④ICTを利用し、視覚や聴覚に訴える授業を増やす。		

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

## 平成28年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	生徒指導	
2	今年度目標	①生徒が、安全・安心に登校できる学校づくり ②生徒ひとりひとりが規範意識をもてるようにする。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①個別面談、玄関・校内指導 ②高校生のびのびプロジェクト活動 ③MSリーダーズ活動、該当啓発活動の参加 ④地域市民活動への参加、清掃活動 ⑤エコキャップ運動、募金活動、マナー啓発活動	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①玄関での「声かけ」と校内巡視を行い問題行動を事前に察知する。 ②個別面談を実施し、より多く生徒の悩みや不安を聞く。 ③SNSの利用についての講話や、薬剤師による薬物乱用防止講座を実施 ④MSリーダーズの加入生徒の増加を行う。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①マナーや社会のルールを守るように適切な指導を行う。 ②個性に応じた服装、頭髪等の適切な指導を行う。 ③いじめや対人トラブルが発生しないための指導、また速やかな対応を行う。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①生徒数も増えたこともあり、生徒間でのちょっとしたトラブルが増えたが、チームで迅速に対応することで、ことが大きくなる前に解決する。 ②近年、SNSによる生徒間のトラブルが増える傾向にあるので、利用の仕方についての講話により、正しく利用するよう意識を持たせる。	A (B) C D A B C D A (B) C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①安全・安心な学校づくりを行うために、些細なことも見逃すことなく職員全員が一丸となって声かけ指導を行う。 ②生徒ひとりひとりが規範意識をもって生活できるように、高校生が組織する規範意識啓発推進委員会(MSリーダーズ)による啓発活動をサポートし、職員間の情報共有と共通指導を行っていく。 ③年3回のいじめ調査アンケートを実施。未然に生徒の状況を察知し早期対応をする。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成28年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	教育相談	
2	今年度目標	①全職員が、カウンセリングマインドを持った教育相談を心掛け、細やかな指導をすることができる。 ②生徒指導 教育相談 臨床心理士 担任 のしっかりとした連携体制を作り上げる。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①個別面談、朝の玄関指導、校内巡視の充実 ②発達障がい専門医による校内研修実施 ③県教育相談担当会での情報伝達	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①生徒指導、臨床心理士と連携し、細やかに行うようになってきた。 ②学ぶことが多かったので、計画的に、さらに深く機会をもち、交流もする ③情報伝達の内容精選については、課題が残るので考えたい。	(A) B C D A (B) C D A B (C) D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	評価表 保護者用19番 23番 生徒用19番 22番 の集計結果より ①いずれもABC評価までの割合(おおむね達成)が合計 約75%をしめる。 ②しかし、全く満足できなかったと回答した割合が約5%をしめる。	(A) B C D A (B) C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①全体的に、生徒に対する相談体制が安定かつ充実しつつある。 ②生徒及び保護者に対する教育相談力の向上のため、教員向けの研修がたびたび必要である。	(A) B C D A B (C) D
7	次年度に向けた改善策・目標	①教育相談の職員校内研修を充実させていく。 ②インクルーシブ教育について学ぶ研究実践計画を手掛けていく。 ③生徒指導 教育相談 臨床心理士 担任 の連携をさらにきめこまやかに図る。 ④校内教育支援計画を着実に進める。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成28年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	進路指導	
2	今年度目標	①社会性とコミュニケーション能力の向上。 ②適性や長所等の自己理解を深める。 ③具体的な進路目標を早期に持たせることにより、主体的に自己実現を図る。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①小規模の説明会を実施。四大・短大・専門・就職希望者に応じた説明会を2～3回実施 ②全ての学年の学級担任及び教科担任が、常に進路指導を意識して生徒の前に立つ心構えをもつ。 ③進路指導だよりを定期的に発行し、生徒の意識を啓発する。 ④ 大学や専門学校へ進学した先輩の話を開く場を設けたり、先輩の言葉を掲示する。 ⑤進路関係の校内掲示を充実させる。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①希望分野別小説明会該当者の6割強が参加。生徒の意識を高めることができた。 ②進路に関する情報の共有を進路だよりや、職員会議を通じて行った。(対職員) ③毎月進路だよりを発行し、今月来月の予定を生徒に周知。同時に本校HPでも案内。 ④2年次生対象の進路説明会にて先輩の体験談を実施。 ⑤進路指導室前の掲示板へ進路情報の掲示。1階玄関横に先輩の写真を掲示。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①生徒は進路説明会の実施に対しておおむね満足の評価をしている。 ②保護者は進路説明会の実施に関しては若干不満を抱いている。 ③保護者は個別の生徒に対する進路指導の支援が弱いと考えられている。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A B C <input checked="" type="radio"/> D
6	総合的に捉えた成果・課題	①進路決定率76.6%は昨年以上を達成。小説明会の効果と思われる。 ②四大希望者に学内外の模試を推奨し、適切な進路指導ができた。一般受験者が7 ③ハローワークから講師を招き、面接指導の充実を図った。 ④個人面談を中心にした個々の生徒に応じた進路指導の実施と保護者に対して「三者懇談の充実、HP等を使った実施内容の公開、連絡」の徹底を図る必要がある。	<input checked="" type="radio"/> A B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A B C <input checked="" type="radio"/> D
7	次年度に向けた改善策・目標	①キャリア教育の教材を総合の時間に利用してもらい、生徒の意識を均一なレベルに引き上げる。 ②先輩の体験談を聞ける機会を増やす。 ③進路だよりと職員会議を利用し、キャリア教育の取り組み具合の均一化を図る。 ④上記手段を通じ「職員全員の協力による進路指導」の実現。保護者に対し進路指導の紹介、協力を求める。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成28年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	特別活動(社会見学・異文化体験・修学旅行)
2	今年度目標	①校外活動(遠足)に関しては前期・後期各1回実施し、普段の授業では得られない学習、級友との会話、自己の向上を目指し参加できることを目標にする。 ②韓国への異文化体験研修旅行実施と海外事情に関する講演会を実施する。 ③修学旅行は、昨年度参加率43.0%を上回る参加を呼びかける。
3	目標達成に向けての取り組み方法	①各担任および特別活動担当との間で緊密な事前協議を行い、生徒に対して特別活動の意義等の周知徹底を図る。 ②JICAによる派遣経験者による講演会の実施。 ③旅行会社との打合せ、特別活動担当・担任との話し合いを通じて有意義な活動になるよう準備する。 ④生徒に対する見学地・旅行先の事前アンケートの実施。
		評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①集団行動の大切さや時間の確認などをくり返し行い、生徒への周知を十分に行うことができた。 ②香港への異文化体験旅行は、希望調査段階では催行人数は集まったが、結果的に最終希望者が最少催行人数に届かず、やむなく中止した。
		(A) B C D A B C (D)
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①子どもの成長の糧になるような特別活動を行った。 ②見学地・旅行先や実施回数等は、全体的に好評であった。
		(A) B C D A (B) C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①集団での行動に難がある生徒について、教員間で計画を練り連携して屋外でも大きなトラブルなく活動が行えた。 ②修学旅行は、生徒アンケート結果により、東京方面への行先変更と公共交通機関利用を始めて実施した。参加率は、約16%増の59.03%であった。
		(A) B C D A (B) C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①特別活動自体は概ね良好で済んだが、実施後の出欠や費用等の処理についてのトラブルが多かったため次年度以降は生徒の充実感と与えられる特別活動の実施は継続しつつ、それ以外の事務処理の点についても円滑に行うことができるように運営を行う。 ②異文化体験旅行は今年度も引き続き、香港行きを目標に参加生徒の募集に努めたい。 ③修学旅行直前のキャンセル数が5名減の9名であった。次年度は生徒の気持ちを高揚させるため、グループ学習等の事前学習の時間を取り入れる。

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成28年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	保健指導	
2	今年度目標	①今後も継続し、保健指導の中に薬剤師と連携し、より充実した指導ができるよう検討していく。 ②保護者の方にもアンケートの実施を検討していく。 (保健指導に関する内容、例えば健康状態や普段の生活の様子を見ていて学校で指導してほしい事など調査、計画するなど) ③「ほけんだより」・講演会の様子等のHPにUPする以外の情報発信の方法も検討していきたい。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①薬剤師の協力による講演会を企画・実施する。 ②健康管理票の情報更新を行う。日頃から担任を通じ連絡を密にし、情報交換したい。 ③修学旅行前の事前保健指導を実施する。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①学校薬剤師による薬物乱用防止に関する講演を開催し、事後の生徒からの質問に対しても、メールで返答していただき、ほけんだよりを通じて生徒に伝えることができた。 ②健康管理票で配慮事項をうかがい、必要に応じて担任に伝えながら対応できた。 ③修学旅行前に事前の保健指導を行った。	(A) B C D A B C D A B (C) D A (B) C D A B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	生徒では「よくあてはまる」、保護者では「ややあてはまる」が増えた。 ①担任を通じた体調管理や校舎衛生維持の呼びかけや、保健室・ほけんだより・生徒相談だより等での直接の保健指導を行うことができた。 ②担任・臨床心理士とよく連携し、個人に応じた対応を行うことができた。 ③MSリーダーズの活動による事故防止への意識付けや、避難訓練を実施できた。 ④HP緊急時の対応の確認マニュアルを掲載。災害備蓄品の整理も継続している。	A B C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①学校薬剤師等、教員以外の講師による講演は継続したい。 ②保健室利用状況が担任以外の教員に把握されづらく、保健室では対応しきれない問題を抱える生徒を多く抱えることもあった。 ③保護者・教育相談担当・生徒指導担当・医療機関等とも連携した指導を行いたい。	(A) B C D A B (C) D A B C D A (B) C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①保健室利用状況を定期的に職員全体に周知し、より個人に応じた対応を行えるようにする。 ②保健室利用状況を生徒にも周知し、生徒会与連携し保健活動への意識付けを行う(献血の啓発含む)。 ③家庭から受け取った健康管理票の内容をこまめに更新し、他の職員も閲覧しやすいようにする。 新入生向けに配布した学校生活支援シートの内容も活用する(保護者会と連携し2・3年生にも実施してみたい)。 ④現在実施できていること(各通信による指導、担任・臨床心理士との連携、防災関係等)は継続して実施する。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分



## 平成28年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	学校図書	
2	今年度目標	①生徒の実情に合った図書選定、購入 ②蔵書管理のIT化と貸し出しの増加	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①希望図書のアンケートの実施 ②図書部の活動の充実	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①アンケートは実施できたが作品名など具体的な意見は少なかった。 ②アンケートが記入しやすいように質問内容を十分に検討できなかった。 ③年間を通しての図書部としての活動ができなかった。	A B <input checked="" type="radio"/> C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A B <input checked="" type="radio"/> C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①図書に関する項目がないため判断は難しいが、頻繁に利用する 生徒もいるため、おおむね満足していると感じる。	<input checked="" type="radio"/> A B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①図書部員数が少ないため、思うように活動することができなかった。 また、読書への関心を持てるような情報発信が十分できなかった。	A B C <input checked="" type="radio"/> D A <input checked="" type="radio"/> B C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①生徒の希望や読んでおいてほしい本を増やし、生徒の利用頻度を増やしていく。 ②図書部に入部してくれる生徒を一人でも多くするため。ポスター掲示や新入生歓迎会で宣伝する。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成28年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	渉外(生徒募集)
2	今年度目標	①本校の存在価値や特色を、パンフレットや自校ホームページ等インターネットを通して的確かつ広範囲に喧伝する。 ②中学校訪問では「報告・情報収集・相談・啓発」活動を一層充実させ、信頼関係を深める。 ③高等学校訪問では不適応や学力不振で挫折する生徒を救うという立場での協力関係を深める。 ④学校見学会や進学相談会では主として進路相談や教育相談を通して保護者との信頼関係を深める。
3	目標達成に向けての取り組み方法	①印象がよく、見やすくわかりやすいパンフレットを作る。また、私立合同説明会では本校の特色や良さを端的に説明する。 ②中学校との人間関係・信頼関係を構築するために、中訪や日常の相談活動を充実する。 ③4月下旬及び9月初旬に高等学校訪問を行い、啓発・相談活動に取り組む。 ④学校見学会や進学相談会では本校のPRでなく、相談・支援活動に力点を置く。
		評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①パンフレットや説明会で本校のよさを伝えることができた。 (A) B C D ②全ての中学校で様々な相談に対応し、助言することができた。 A (B) C D ③高等学校訪問では担当者と十分な話し合いの時間が持てなかった。 A B (C) D ④学校見学会には昨年度以上の参加者があった。進学相談会は会場によって参加人数に差があったが、相談はしっかりできた。 (A) B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①中学校や適応指導教室からの評価も上々である (A) B C D ②人物重視の基準が浸透しつつある。学校見学時の面談で人物理解の必要から踏み込んだ質問等をしたが、中学校長会からは厳しい質問であったという指摘も数件受けた。 A (B) C D ③相談・支援に力点を置いた活動の評価も良い。 A (B) C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①かなりの成果があり、中学校新卒の入学生は194名であった。 (A) B C D ②全体としては学校見学・個別相談参加者に対しては親切・丁寧な相談活動ができた。 A (B) C D ③高等学校との情報交換や連携はもっと深める必要がある。 A B (C) D
7	次年度に向けた改善策・目標	①本校のよさや特色の理解のために、パンフレットや説明会で一層効果的にアピールする。 ②生徒の現状や進路の報告、中学在校生に関する教育・進路相談をさらに充実させるためにiPad/iPadを活用し、中学校との日常的な相談体制を作る。 ③高等学校を訪問した際に、担当者と面談・相談の場をしっかりと設けていく。 ④回数が縮減されるが、相談活動を充実させるとともに、新たなアピールの場を模索する。

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成28年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	事務	
2	今年度目標	① 効率的な事務処理 ② 生徒・保護者のニーズに適応されながら、役割を判断し、それを実践していく。 ③ 教育環境の整備	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 情報の共有化をはかり、円滑に処理を進める。 ② 生徒・保護者が何を必要としているかを考え、信頼される学校づくり。 ③ 教育に関わる整備を教員ともに考え整備する。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 教職員と連携を取り合い、効率的かつ合理的に事務処理ができた。 ② 業務に携わり、生徒・保護者とのコミュニケーションができたと思う。 ③ 教務システムとの連携により、事務処理環境をより整備することができた。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 「訪問時・電話対応は適切である」について若干の向上が見られた。 ② 「生徒に対する態度」について若干の向上が見られた。 ③ 生徒・保護者に対する事務説明について若干の向上が見られた。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A B C D A B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	① 立場や考え方が多様であるため、現状にあわせた学校運営を実践し、信頼される学校となる。 ② 事務処理能力のスピード化。	A (B) C D A B C D A (B) C D A B C D
7	次年度に向けた改善策・目標	① 役割を判断し、実践していくことがより一層求められる。 ② 保護者・生徒の対応に適切かつ満足感を持ってもらえるようにする。 ③ 職員の資質向上のため研修を実施する。また、業務の洗い出しを行い効率的な処理を行う。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

## 保護者による評価

次の項目について、A～Eの該当する欄に○印を付けてください。

A. よくあてはまる    B. ややあてはまる    C. あまりあてはまらない    D. まったくあてはまらない    E. わからない

数値は割合(%)を示します

通番	項目	A	B	C	D	E
教育方針 ・ 学校経営	1 学校の教育方針(個性によるクラス分け等)や指導の内容に共感できる。	31%	51%	11%	1%	6%
	2 明るく楽しそうに学校生活を送っている	27%	46%	21%	5%	1%
	3 学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	17%	52%	17%	2%	12%
	4 学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	33%	48%	15%	1%	4%
家庭との連携	5 学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている。	47%	37%	12%	3%	1%
	6 学校と保護者との連携はしっかりとれている。	30%	46%	18%	2%	4%
	7 子どもは家庭で学校でのことをよく話す。	27%	35%	31%	6%	1%
教員	8 保護者が学校を訪問したり、電話した時の教員の対応は適切である。	41%	46%	8%	2%	4%
	9 教員の子どもに接する時の態度は適切である。	29%	46%	13%	1%	11%
	10 教員の子どもに対する指導(学習・生活・進路)に熱心さを感じる。	24%	48%	15%	1%	13%
事務職員	11 保護者が学校を訪問したり、電話した時の事務職員の対応は適切である。	36%	45%	13%	2%	4%
	12 事務職員の子供に接する時の態度は適切である	20%	36%	14%	4%	26%
	13 事務職員による学納金等の事務説明が明確である。	32%	42%	13%	1%	12%
学習指導	14 学校は基礎学力の定着・向上に努めている。	20%	50%	16%	1%	13%
	15 教員は熱心に学習指導を行っている。	23%	45%	18%	1%	14%
	16 レポート作成など家庭学習が定着してきた。	30%	46%	17%	3%	4%
生徒指導	17 マナーを身に付けることや、社会のルールを守るようにとの指導が適切に行われている。	21%	50%	15%	1%	14%
	18 個性に応じた服装、頭髪等の指導が適切に行われている。	27%	43%	15%	1%	15%
	19 いじめや対人トラブルが発生しないための指導がされており、発生した場合は速やかな対応がなされている。	24%	37%	13%	1%	25%
進路指導	20 進路説明会などが適切に行われている。	27%	43%	14%	1%	15%
	21 生徒の将来の希望や適性に沿った具体的な進路指導が行われている。	18%	43%	16%	2%	21%
健康管理 ・ 安全指導	22 学校は生徒の衛生面に配慮し、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。	23%	45%	11%	0%	20%
	23 学校は臨床心理士を配置するなど教育相談活動の充実を図り、心のケアに努めている。	29%	45%	9%	2%	15%
	24 学校は交通事故の防止活動、避難訓練などを通して子どもの安全確保に努めている。	26%	44%	11%	0%	19%
	25 学校から地震や台風などの際の対応について、生徒や保護者に対応マニュアルが知らされている。	27%	43%	14%	3%	13%
学校行事等	26 学校は子どもの成長の糧となるような学校行事を行っている。	21%	47%	19%	2%	11%
	27 本校の生徒会活動は活発である。	16%	38%	18%	2%	27%
	28 学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	17%	40%	19%	2%	23%
	29 本校の保護者会活動は活発である。	15%	41%	16%	2%	27%

## 生徒による評価

次の項目について、A～Eの該当する欄に○印を付けてください。

A. よくあてはまる    B. ややあてはまる    C. あまりあてはまらない    D. まったくあてはまらない    E. わからない

数値は割合(%)を示します

通番	項目	A	B	C	D	E
教育方針・学校経営	1 学校の教育方針や指導目標について分かりやすく説明を受けている。	25%	49%	16%	3%	7%
	2 個性によるクラス分けや登校時間帯分けが行われていることで、自分の居場所を得ることができた。	43%	33%	13%	3%	8%
	3 学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	26%	36%	23%	6%	9%
	4 学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	45%	35%	14%	3%	3%
家庭との連携	5 学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けている。	48%	30%	14%	5%	3%
	6 家庭で学校に関する話をしている。	35%	28%	25%	8%	4%
教職員	7 先生に親しみやすさを感じている。	35%	44%	12%	4%	4%
	8 先生は悩みや相談事に親切・丁寧に対応してくれる。	32%	38%	10%	4%	15%
	9 事務職員の対応は親切・丁寧である。	32%	34%	18%	6%	10%
学習指導	10 理解しやすい授業が行われている。	30%	45%	19%	4%	3%
	11 先生は熱心に授業を行っている。	34%	48%	10%	3%	4%
	12 落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができている。	47%	33%	13%	4%	4%
	13 基礎学力が身に付いてきたと感じている。	21%	38%	24%	8%	8%
	14 総合的な学習の時間の内容は有意義である。	24%	38%	25%	6%	8%
	15 レポート作成などを含め、継続的な家庭学習を行っている。	30%	33%	25%	7%	4%
生徒指導	16 マナーを身に付けることや、社会のルールを守るようにとの指導が適切に行われている。	35%	38%	15%	3%	8%
	17 個性に応じた服装、頭髪等の指導が適切に行われている。	41%	34%	10%	4%	10%
	18 いじめや対人トラブルが発生しないための指導がされており、もし発生した場合は速やかに対応してもらえる。	34%	26%	11%	3%	25%
進路指導	19 有意義な進路説明会が行われている。	30%	32%	13%	2%	23%
	20 個別の進路相談に熱心に対応してもらえる。	33%	29%	16%	3%	20%
健康管理・安全指導	21 生徒の衛生面に配慮し、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。	36%	36%	14%	3%	12%
	22 臨床心理士や養護教諭がいるので学校に安心感が持てる。	39%	34%	15%	2%	9%
	23 学校は交通事故の防止活動、避難訓練などを通して安全確保に努めている。	39%	37%	15%	3%	7%
	24 地震や台風などの際の対応についての指導をしっかり受けている。	35%	29%	20%	4%	12%
学校行事等	25 特別活動は充実している。	41%	33%	11%	7%	8%
	26 部活動が活発に行われている。	16%	22%	21%	9%	32%
	27 生徒会活動は活発である。	30%	28%	15%	7%	20%
	28 学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	24%	30%	17%	4%	25%

# 平成28年度 学校関係者評価委員

平成29年4月22日実施

委員名簿

役職

氏名

朝日大学

村橋 剛史 様

岐阜市私立中学高等学校協会 参与

石川 宗一郎 様

ぎふ国際高等学校学校関係者評価委員

堀 征二 様

木ノ本自治連合会会長

古澤 豊吉 様

坂井町町内会長

篠原 國興 様

ぎふ国際高等学校保護者会会長

三島 由光江 様

ぎふ国際高等学校保護者会副会長

棚橋 英二 様

ぎふ国際高等学校保護者会副会長

八代 千彰 様

ぎふ国際高等学校保護者会副会長

坂本 みどり 様

## ぎふ国際高等学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	A 十分達成している <input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している C どちらかといえば達成していない D 達成していない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生時代に不登校であった生徒が中心であり、その生徒に合わせて地道な努力が行われ、成果につながっている。</li> <li>・目標にぶれがなく継続的な取り組みが行われている。</li> <li>・重点目標がよくわからない。</li> </ul>
2. 学校の自己評価表の具体的目標及び具体的方策の達成状況について	A 十分達成している <input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している C どちらかといえば達成していない D 達成していない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの項目がA、Bであり、目標は概ね達成している。</li> <li>・一部、C、Dとなっている項目はより改善を目指した評価ではあるが、あまり高い達成度を求めることは実態に必ずしも適合しない可能性がある。</li> <li>・目標値がよくわからない。</li> </ul>
3. 次年度への主な課題の把握について	A 十分達成している <input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している C どちらかといえば達成していない D 達成していない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別具体的な項目についてあるべき姿tp現状の課題を適切に抽出できている。</li> <li>・昨年度に比べて新たな気づきがいくつか生まれ、より課題に対し深い理解がなされている。</li> <li>・課題の把握は、達成しているかどうかではなく把握しているか、どうかではないでしょうか。</li> </ul>
4. 改善方策の策定状況について	A 十分達成している <input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している C どちらかといえば達成していない D 達成していない	学校側の評価結果と、生徒／保護者の評価(悪いところ)ズレ(差異)のある点の原因と意思を検討(意見を聴取)されることが望ましい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な現状理解を基に今年度うまくいかなかった原因を適切に把握し、その原因に合わせた対応策ができています。</li> </ul>
5. 「目指す学校像(生徒の基礎学力向上・基本的生活習慣の確立に向けての継続的な指導を行い、生徒[保護者]が安心して通う[通わせる]ことが出来る学校)」について	A 十分達成している <input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している C どちらかといえば達成していない D 達成していない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭とのコミュニケーションを図る努力がいろいろ行われており、不登校の生徒が学校に来る習慣ができるなど成果が現れている。</li> <li>・アンケート調査の結果で「わからない」と答える比率が増加しており学校の取り組みを、より保護者・生徒に理解してもらえる方策を検討すべきである。</li> <li>・生徒一人一人がここに問題を抱えているため、100%を目指すのはとても難しい事だと思います。</li> <li>・向上させる為には家庭との連携が不可欠だと思う。</li> </ul>

# 平成28年度 学校関係者評価報告書

学校名：ぎふ国際高等学校

## 1 学校目標

- ・「自律・進取・創造」の校訓のもと、豊かな社会性を身に付け、地域社会人として信頼される確かな基本的生活習慣・規範意識や考え方・生き方を育成する。
- ・夢や目標をもち、社会に貢献できる自己の実現に向け、基礎的・基本的な学力の定着を図りつつ、主体的・継続的に学び続ける意欲や態度を育成する。
- ・他人の立場や思いを理解し、互いの人格を尊重し、思いやりのある言動をとることができる豊かな人間性を育成する。

### 学校目標に対する評価・意見

- ・全体の教育目標は一貫しており、登校の生徒にあった適切な目標を掲げている。
- ・教育目標を実現するために個別の項目について具体的な目標が掲げられている。
- ・健全な学園経営、運営の為に生徒数確保に努められたい。 ・日常の問題は特にありません。
- ・厳しい自己評価をしながら、より良い学校を目指す姿が評価できる。
- ・評価の判断ができない。今後そういう目で見たい。
- ・子ども達、学校教育の向上の為に厳しく評価されていると思います。
- ・学校としては先生方は尽力下さっているように見えます。ただ、生徒一人一人への対応が必要な学校だと思うので、先生方の負担がとて多くなっているのではないかと感じます。

## 2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方針が適切か
基準1 (教育理念・目的・育成人材像等)	3.6	3.6	3.6
基準2 (学校運営)	3.6	3.6	3.4
基準3 (教育活動)	3.6	3.6	3.6
基準4 (教育成果)	3.6	3.3	3.4
基準5 (生徒支援)	3.6	3.4	3.1
基準6 (教育環境)	3.7	3.6	3.1
基準7 (生徒募集と受け入れ)	3.9	3.9	3.3
基準8 (財務)			
基準9 (法令等の遵守)			
基準10 (社会貢献)	3.5	3.3	3.5

※学校関係者評価委員7名による評価の平均。

4：適切な評価である 3：ほぼ適切な評価である 2：やや不適切な評価である 1：不適切な評価である

## 3 今後の改善意見

- ・保護者と対話する機会をより増やし、学校の取り組みを保護者により知ってもらうとともに学校と家庭がより連携して子どもの教育・成長支援に両者が協力していくような仕組みがよりできると良い。
- ・生徒の自信、自己肯定感が大切だと思うので、それを実感できるような学習プログラムをより志向していけると良い。
- ・生徒一人一人に丁寧に向き合っていく時間・人材の確保。 ・保護者との連携強化。 ・適切だと思います。
- ・前年度などを評価し、生徒、保護者、学校と意見を出しあい、生徒が行きたくなる、通いたくなる学校にしてほしい。
- ・過去との比較（前年・年度）があると良い。
- ・教育環境として校舎の増設か移設をしていかないと、生徒数の増員が難しいと思います。
- ・上記内容に対して教員の増加も必要。現在の人数では対応がかなりむずかしい場合も（負担分散を希望）。
- ・きめ細かい対応を取る為には、少人数教育と十分な人員が必要だと思いますが、生徒の増加により難しくなっているのではないかと感じます。早急に校舎の拡大と教員数の増加をお願いしたいと思います。

## 4 今後の具体的な改善方針

- ・全ての生徒が安心して楽しく学び、確かな学力を身につけ自己実現を達成に向けられる教育環境・課程・相談等の充実を図る。
- ・基礎学力の定着を図り、思考力・判断力・表現力を育み、学ぶ喜びが感じられるよう主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。
- ・社会の一員としての礼儀・社会常識・言葉遣い等を涵養し、豊かな生活や人間関係を築けるよう実践的態度を育成する。
- ・自他の人権を尊重し、誰もが安心して楽しく生活できる集団関係の醸成。
- ・守るべき規律・規範を明確にし、生徒の主体的遵守を促すべく職員の共通理解・共通指導を徹底させる。
- ・全職員がカウンセリングマインドを持って受容・理解・支援の指導に徹する。
- ・社会性／コミュニケーション能力の向上を図り、自己理解に基づく適切な進路決定の実現に向けて指導の充実を図る。
- ・自己の生活・健康・安全・環境についての意識を高め、自己管理力の育成を図る。
- ・本校の存在意義や良さを、保護者・地域・中学校・高等学校・特別支援学校等関係機関により広く知ってもらう。